

プログラム名 (40字以内)	実践の重なりから見える共生社会—北海道・浦河で共に考える		
団体名/所属	合同会社アポイワークス・浦河町役場		
活動区分	フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	書類審査後に面接
募集人数	3~4人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	オンラインを活用しつつ現地活動を行う		
参加者に求めるもの	本プログラムは、学年や所属に限らず、広く多様な学生の参加を推奨しています。学部学生・大学院学生を問わず、熱意ある皆さまのご応募をお待ちしております。ただし、以下に該当する方を優先的に募集いたします。共生社会の在り方や、地域福祉の実践などに深い興味関心を持っている方 事前学習(オンライン講義1時間程度を1回)に参加できる方(テストと被るなどの場合にはアーカイブを視聴できる方) まちづくりや地方創生に関心のある方 北海道に関心がある、関わってみたいという思いのある方、北海道が好きだ！という方		
活動期間	2026/8/3(月)~8/7(金) 5日間	主な活動予定場所	北海道浦河町(浦河町乗馬公園、地域内の福祉施設、教育支援現場等)
プログラム実施の目的	「現場の動きが先にあり、後から支えや仕組みが重なっていった」という浦河町の構造を、複数の現場を見学、体験することを通して理解することを目的とします。行政主導の計画ではなく、目の前の現実や課題に対して一つ一つ対応を積み重ねることで立ち上がった「生きた社会の形(結果としてのユニバーサル)」を体感します。多様な背景を持つ他者と時間を共にし、同じプログラムを体験する中で、自然と立ち現れる「共に在ることの現実」を身体化する機会を創出します。		
具体的な内容(800字程度)	<p>浦河町には、障害のある人、外国人、子ども、高齢者など、多様な背景をもつ人々が生活し、働いています。こうした町の姿は、行政主導の計画によって「ユニバーサルな町」を目指してつくられたものではありません。それぞれの現場で人が動き、困りごとが生じ、それに対して周囲や行政が関わってきた結果として形づくられてきました。</p> <p>本体験プログラムでは、現場での体験を通じて、学生が「現場発の社会づくり」の構造を知ることを目指します。理想の計画から始めるのではなく、目の前の現実に対して対応を積み重ねることで立ち上がる「生きた社会の形」を体感します。</p> <p>【主な見学・体験先】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■精神障害に関わる実践(浦河べとの家)：独自の当事者研究や共同体の在り方を学びます。</li> <li>■乗馬療育/ホースセラピー(浦河町乗馬公園)：馬を通じたケアと地域交流の現場を体験します。</li> <li>■教育・多文化共生(オルタナティブスクール、外国人学習支援)：地域での多様な学びの場を訪ねます。また、地域の子どもへの教育イベントを通じて学びの場作りや地域との過関わりを実践的に学びます。</li> <li>■馬産地日高：東京都渋谷区と同等の広さを誇る競走馬の育成施設(日高育成牧場)の見学、乗馬体験など日高ならではの体験を通じ地方の産業と人の生活について学びます。</li> </ul> <p>本プログラムでは、障害のある学生を含む多様な参加者が同時に参加することを前提に、特定の参加者への個別配慮としてではなく、参加者全員に適用される「共通の進行様式」をあらかじめ構築し、運営することを目指しています。</p> <p>本プログラムを主催する合同会社アポイワークスは、北海道様似町を拠点に、福祉や教育など地域で生きる人々を多角的に支える活動を行っています。代表は本学の卒業生であり、在学中に参加したFSなどの体験を踏まえて本プログラムは企画されています。本プログラムでは、現場での体験や対話を通じて、参加者が自身の将来や専門性の活かし方を考えるきっかけとなることを目指します。</p>		
【総額】参加するための費用	87,000円		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	8,000円×4泊(相部屋の場合)、個室を希望の場合は応相談		
【内訳】参加するための費用(交通費)	(目安)：32,000円 ・自宅~成田空港：約1,000円 × 往復 = 約2,000円 ・成田空港~新千歳空港(往復)：約15,000円 × 2 = 約30,000円(LCC利用を想定) ※航空券の購入時期によって、記載の金額より高く/安くなる場合があります。		
【内訳】参加するための費用(その他)	・食費：2,000円 × 5日 = 約10,000円(朝食はホテル代に含まれています) ・乗馬・施設体験費用：3,000円(ホースセラピー体験料等を含む) ・プログラム運営に関わる諸経費：10,000円		
奨励金額(予定)	25,000円		
備考	<p>【障害のある学生の参加について】本プログラムは、障害の有無や背景に関わらず、多様な学生の参加を心から歓迎します。ただし、主催団体および各協力現場は専門の介護・医療機関ではなく、受け入れ体制には実質的な限界があります。そのため、参加を希望される方は、以下の「現場の現実」と「運営のスタンス」についてあらかじめご理解ください。</p> <p>環境と体制の限界：利用施設は地方の古い建物が多く、必ずしもエレベーターやスロープが完備されているわけではありません。また、乗馬公園や牧場周辺など、未舗装の屋外(土、砂利、草地)での活動も含まれるため、物理的なバリアフリー環境には限りがあります。専門の介助スタッフの常駐も困難です。</p> <p>事前のコミュニケーション：個別の配慮やサポートが必要な場合は、選考段階または事前の打ち合わせにおいて、必ず詳細をお知らせください。事前に情報を共有いただくことで、現場でどのような工夫が可能かを共に検討することができます。</p> <p>「共に考える」プロセスの重視：事務局として可能な限りの調整は行いますが、現場で「何ができて、何が難しいか」を、学生・事務局・地域住民が共に考え、工夫し、重なり合っていくプロセス自体を本プログラムの学びの根幹としています。</p> <p>「万全の体制で迎える」という形式的なおもてなしではなく、現場ののびきならない現実の中で、お互いの限界を認め合いながら活動を成立させる意思のある方の応募をお待ちしております。</p>		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト			
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者(応募団体の参加の有無)	参加する		